

プラスチック・サーキュラー・チャレンジ2025

# ニッスイグループのコミットメントとその進捗



2025/10/8

株式会社ニッスイ サステナビリティ推進部 坂井 静香

## ■ ミッション(存在意義)

### ミッションに込めた思い

- 「食」に注力する企業へ
- 海で培ったモノづくりの心と未知を切り拓く力
- サステナブルな未来を見据えて進んでいく決意

### ミッション

私たちを突き動かすもの。  
それは「人々により良い食をお届けしたい」という志。

海で培ったモノづくりの心と未知を切り拓く力で、  
健やかな生活とサステナブルな未来を実現する  
新しい“食”を創造していきます。

## ■ 長期ビジョン「Good Foods 2030」

人にも地球にもやさしい食を世界にお届けするリーディングカンパニー

## ニッスイグループのマテリアリティ(重要課題)

|                                                                                                                                                   |                   |                                                                                                              |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|  <p>Recipe for the<br/><b>Planet</b><br/>持続可能な<br/>地球環境を創る</p>    | 海洋の生物多様性の主流化      | <ul style="list-style-type: none"> <li>海洋の生物多様性および海洋環境の保全</li> <li>水産資源の持続的な利用</li> </ul>                    |
|                                                                                                                                                   | 脱炭素・循環型社会への貢献     | <ul style="list-style-type: none"> <li>気候変動への対応</li> <li>循環型社会実現への貢献(フードロス削減、プラスチック使用量削減など)</li> </ul>       |
|  <p>Recipe for the<br/><b>Society</b><br/>健やかな社会を<br/>ともに創る</p>   | 持続可能なサプライチェーンの構築  | <ul style="list-style-type: none"> <li>サステナブル調達の推進(トレーサビリティの確保、人権尊重、環境配慮など)</li> <li>食の安全・関心、品質保証</li> </ul> |
|                                                                                                                                                   | 健康課題の解決           | <ul style="list-style-type: none"> <li>健康領域商品の拡大</li> </ul>                                                  |
|  <p>Recipe for the<br/><b>Teammates</b><br/>活き活きと働く<br/>人財を創る</p> | 人財育成と多様な人財の活躍     | <ul style="list-style-type: none"> <li>経営戦略と連動した人財戦略</li> <li>ダイバーシティ&amp;インクルージョン</li> </ul>                |
|                                                                                                                                                   | 労働力確保と生産性の向上      | <ul style="list-style-type: none"> <li>働き方改革、省人化、生産性の向上</li> <li>労働安全、健康経営</li> </ul>                        |
|                                                                                                                                                   | ミッションへの共感とブランディング | <ul style="list-style-type: none"> <li>ミッション浸透、ブランディング</li> <li>従業員エンゲージメントの向上</li> </ul>                    |
|  <p>Recipe for the<br/><b>Growth</b><br/>食の可能性を追求し、<br/>未来を創る</p> | DXによる革新           | <ul style="list-style-type: none"> <li>デジタル活用による業務効率化</li> <li>DXによる革新と競争優位の獲得</li> </ul>                    |
|                                                                                                                                                   | グローバル展開の加速        | <ul style="list-style-type: none"> <li>海外事業展開の加速</li> <li>地政学リスクへの対応</li> </ul>                              |
|                                                                                                                                                   | 食に関わるイノベーションの創出   | <ul style="list-style-type: none"> <li>新しい“食”の創造</li> </ul>                                                  |

## 1-2. 環境負荷低減に向けて削減目標を設定した上で取り組む

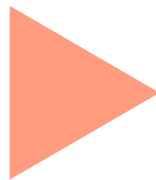
- ✓ コミットメント      容器包装・使い捨てプラスチックの2030年目標を設定し、削減に取り組む
- ✓ 進      捗      〈2030年度目標〉
  - ・容器包装プラスチック使用量、プラスチック排出量   ： 基準年度比30%削減〈2024年度実績〉
  - ・容器包装プラスチック使用量   ： 6.7%削減   ・プラスチック排出量   ： 14.3%削減

### 【削減目標と実績】

| KPI                                                   | 実績      | 目標     |        |
|-------------------------------------------------------|---------|--------|--------|
|                                                       | 2024年度  | 2027年度 | 2030年度 |
| 容器包装におけるプラスチック使用量<br>基準年度：2015年度、単位：原単位、対象：ニッスイ個別     | 6.7%削減  | 15%削減  | 30%削減  |
| 生産段階におけるプラスチック排出量<br>基準年度：2017年度、単位：原単位、対象：ニッスイ国内グループ | 14.3%削減 | 25%削減  | 30%削減  |

## 1-1. 問題のあるもの、及び、必ずしも必要のないものの使用を取りやめる

- ✓ コミットメント 練り製品、冷凍食品のトレーレス化に取り組む
- ✓ 進 捗
  - ・「海からサラダフレーク」の包装をトレーレスに変更、プラスチック使用量を45%削減\*
  - ・他のフレークタイプの風味かまぼこ商品でも推進し、年間約110トンの削減を見込む
  - ・一部の家庭用/業務用冷凍食品におけるトレーレス化を検討中



\*「海からサラダフレーク120g」の従来品からのプラスチック削減率

### 1-3. 代替素材への切り替えの際は、その持続可能性を十分考慮する

- ✓ コミットメント プラスチックから紙への置き換えの際には、FSC認証紙を積極的に採用する
- ✓ 進 捗
  - ・商品に使用するプラスチックトレイを紙素材に変更し、年間約56トンの削減を見込む
  - ・変更後の紙素材トレイは、FSC認証を受けた素材を使用

【商品例】



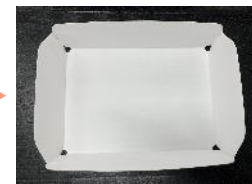
従来品



変更後



従来品



変更後

## 2./3-1. 可能な限り、リユース(他の素材のリユースを含む)へと切り替える、リサイクル可能なデザイン

- ✓ コミットメント
  - ・国にグループの生産工場において、原材料の容器(袋)に関し、リユース可能な素材・形態への変更を検討するまた、通い箱への置き換えを行い、リユースの推進を図る。
  - ・主に生鮮マグロ輸送において、発泡スチロール梱包から、リユース可能な通い箱への転換を推進する。
- ✓ 進 捗
  - ・原材料由来の使い捨てプラスチックを通い箱へ置き換え
  - ・生鮮マグロの輸送において、使い捨て発泡スチロール梱包から通い箱へ転換  
2024年度は取扱本数の92%に当たる600本を通い箱で輸送



## 3-2. 可能な限り、リサイクル可能なデザインとする

- ✓ コミットメント 容器包装で使用されている複合素材に関して、モノマテリアル化を検討する。
- ✓ 進 捗 一部の冷凍食品のアルミ蒸着などの容器包装について、品質を保持した上でアルミレス化を推進

【商品例】

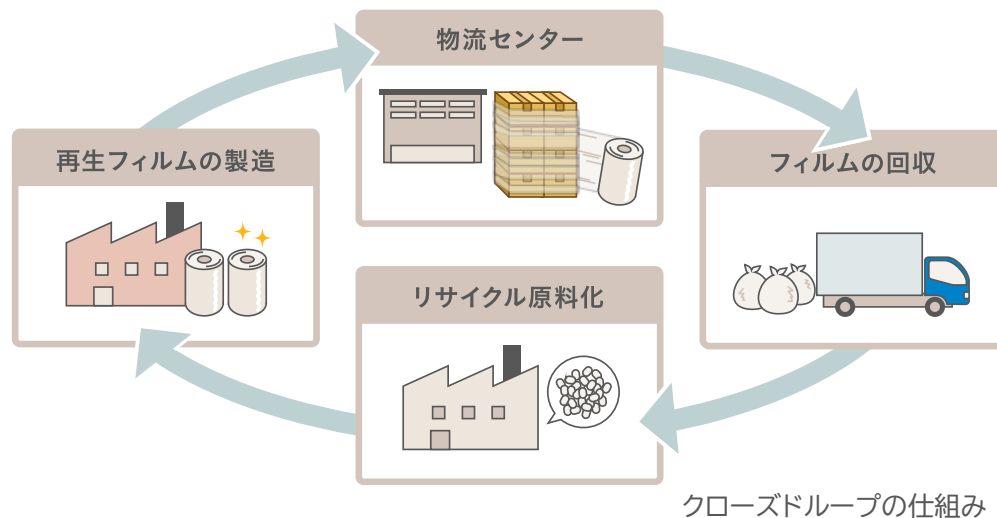


## 4. リサイクル素材意欲的な使用目標を設定する

- ✓ コミットメント
  - ・荷崩れ防止などに使用するストレッチフィルムに関して、プラスチックリサイクル企業と協働し、国内グループ内でのクローズドループの仕組みを構築する。
  - ・また、そのクローズドループの仕組みを活用し、グループ内で2025年までに使用100%を目指す。
- ✓ 進 捗
  - ・クローズドループの仕組みを構築し、物流グループ会社全体で再生ストレッチフィルム100%使用を達成



再生ストレッチフィルム



## 5. ステークホルダーとの協力

- ✓ コミットメント 幅広いステークホルダーと具体的協力事例を拡大する
- ✓ 進 捗
  - 〈リサイクル業者との協働〉
    - ・再生ストレッチフィルムの活用
  - 〈PBオーナーとの協働〉
    - ・オムライスの包装形態変更によるプラ削減
  - 〈原材料納入業者との協働〉
    - ・原材料の包装形態の見直し(使用取りやめ・縮小・大容量化)
  - ・グラタン蓋の形状変更によるプラ削減



従来品  
(二重包装)



変更後  
(バンドルテープ)



従来品



変更後  
(蓋の高さ低減)

## 食品の容器包装プラスチックを循環型に変えていく上での課題

- 品質保証上の制約

- ・食品の安全性・品質保持のため、厳しい衛生管理やバリア性能が必要
- ・冷凍・冷蔵・常温と多様な温度帯に対応 → 複合素材が多用されている

- 法規制の制約

- ・食品衛生法などにより再生材利用に制限あり

- 経済・社会的な制約

- ・再生材はコスト高な一方で、日本の消費者からの受容性は低く、企業にとって逆インセンティブ

循環型資源の導入には依然として高いハードル  
解決には、業界横断的な協働や社会全体での仕組みづくりが不可欠





まだ見ぬ、食の力を。